

# 2024 年度 勤労者支援事業部研修会報告

日時：2025年2月19日（水）13:00～15:00

場所：ハイブリッド開催

（新潟医療福祉大学学生寮 N-Village 伍桃 食堂と Zoom）

参加対象者：勤労者支援・地域活動事業部会員

参加申込人数：10名

内容：1.自己紹介

2.学生寮の食事の説明

3.スライド説明

4.グループワーク「職域統合に向けてこれからを考える」

5.その他

## 2.学生寮の食事の説明

開催場所の新潟医療福祉大学の学生寮の食事形態概要の説明をおこなった。すでに提供したメニュー写真をお見せしながら、献立作成時や提供後に問題となった事例とその解決方法を合わせてお伝えした。

### ○提供形態概要

喫食者数：約 700 名

提供日：朝・夕の1日2食、週6日(月～土)

形式：朝夕ともにビュッフェ、アレルギー非対応

### ○提供メニュー写真



豚ときのこのつけそば  
五目ちらし  
キャベツの塩昆布和え



ごはん/味噌汁  
揚げ鶏のごま醤油だれ  
オクラとろろ/サラダ



朝食) クリスマス特別メニュー



コーンバターライス/味噌汁  
マスのトマトバジルソース  
ブロッコリー洋風ゴマサラダ/サラダ



朝食) お茶漬け

#### 4.グループワーク「職域統合に向けてこれからを考える」

勤労者支援事業部は会員数が少なく、他の職域が開催している役員会や研修会の開催ができていない。そのため、今後何が必要でどのような対応をしなければならないか把握できていない会員が多数のため、現状をありのまま地域活動の会員にお伝えし、ここからどのような対応をすべきかを考えながら意見を出し合った。

また、これまで行ってきた各職域内の対応について、以後も継続していくべき事例や、今後見直しをはかるべき事例について声をあげ、意見のすり合わせを行った。

初めての合同研修会でしたが、対面形式で積極的な意見交換が行われ有意義な時間となりました。参加頂いた皆様 ありがとうございました。

勤労者支援事業部  
渡辺絵里子

## 研修会内で上がった意見

### ○統合することで考えられる事例

- ・いろいろな分野の方がいる職域になる
- ・職形態が増えることで研修会の内容が充実する
- ・研修会に出席する機会が増える
- ・自己研鑽する場が増える

### ○今のまま継続すべき事例

- ・年に1回は対面形式の研修会を設ける
- ・職域統合後の研修会は、予算が可能であれば年に3回以上（地域活動2回/勤労者支援1回）の開催を希望。どの研修会も行き来できる形にする
- ・楽しくやれることを大事にしてほしい
- ・職域の雰囲気づくり。傍からみて、楽しそうな職域だなと感じてもらえる様な形を目指す
- ・考えを共有できる場の提供

### ○変化を求めたい事例

- ・地域活動会員は事務局担当を任されるケースが多い。支部内の会員が少ないにも関わらず順番に回るため、数期で担当が回ってくる。事務局担当が支部と職域で兼務となる場合もある。その配慮も求めたい
- ・職場の退職と同時期に、栄養士会を退会するケースがあとを絶たない。退職後には統合後の職域に異動してもらうような声かけができるか
- ・メールを送っても開封されない。県栄主体でまず連絡を取れる手段の見直しを図ってほしい
- 例) 県栄の公式ラインを作る・職域の公式ラインを作る
- ・会員名簿の開示。申請ができる者は部長だけでなく、3役まで開示できるシステム改善を求めたい
- ・会員の名前も分からなくなった上に、顔も把握できていない
- ・支部の引継ぎができない。前任者の連絡先が分からず聞く手段もないため、役員が変わると今までの内容が「ゼロ」になってしまう。引継ぎのルールを設けてほしい
- ・県栄のホームページの更新頻度を上げる
- ・研修会を開催しても、決まったメンバーしか来ない。新しく入会した方にも参加しやすい環境を目指す。
- ・見える化を図る